

2014 年 10 月 7 日

御嶽山現地調査結果について

1. 調査者

国土技術政策総合研究所土砂災害研究室：國友室長

（独）土木研究所 火山・土石流チーム：清水研究員

中部地方整備局河川部河川工事課：松村課長補佐（6 日のみ）

中部地方整備局河川部：小野建設専門官（7 日のみ）

2. 調査行程

（10 月 6 日）

- ・ 11:00 冷川、鹿ノ瀬川、白川、湯川
- ・ 13:00 濁沢川
- ・ 16:10 下山

（10 月 7 日）

- ・ 8:00 ヘリ調査開始
- ・ 10:45 終了

3. 所見

（濁沢川）

- ・ 10 月 6 日の現地調査において、濁沢川の林野庁ワイヤー設置箇所（洗い越し付近）で土石の堆積を確認した。
- ・ 本日、ヘリ調査により、大地獄谷火口付近から洗い越し付近まで土砂の流下痕跡が認められたことから、林野庁が設置したワイヤーセンサーの切断時間から 10 月 5 日 16 時 59 分ころに土石流が発生したと推定される。
- ・ 土石流発生直前である 10 月 5 日 15 時 50 分～16 時 50 分の 1 時間には、アメダス御嶽山において、台風 18 号に伴う一連の降雨における最大時間雨量である 13.5mm の降雨が観測されている。

2014 年 10 月 7 日

- ・ 林野庁ワイヤーセンサー設置箇所付近における土石の最大堆積深は 2.0～3.0m 程度であると推定され、堆積物は大きなもので 1.0～1.5m 程度であった。
- ・ 土石は濁沢川と伝上川合流点付近までに堆積しており、土石流は王滝川本川まで達するような規模ではなかった。細粒分については治山ダムの除石を実施している箇所付近までに堆積していた。
- ・ それより下流部においては顕著な増水の痕跡、土砂の堆積は認められなかった。
- ・ 大地獄谷周辺に堆積していた火山灰は、ある程度の量が今回の降雨により下流に流出したように見受けられる。
- ・ 今後も、依然として火口周辺には火山灰の堆積は認められることから、時間 10mm 程度の降雨でも同程度の土石流が繰り返し発生する恐れがあると考えられるが、土石流の大部分は伝上川合流点付近で堆積することが想定され、集落に達するような土石流のおそれは小さいと考えられる。
- ・ ただし、濁沢川の流域においては、一定程度の火山灰が流出したと認められるが、火山灰の堆積があった区域内における侵食であったことから、土石流の危険性はシミュレーションを実施した時点と比べ変わらないものと考えられる。
- ・ しかしながら、大雨の際には、土石流に対する注意や警戒が必要であり、また、火山活動の推移により流域に状況変化があった場合には、これらをふまえた追加調査を行う必要がある。

(白川・湯川・鹿ノ瀬川・冷川)

- ・ 御嶽山東麓の河川においては、現地調査により、流域が山頂部に接する、白川、湯川で白濁を確認した。
- ・ 鹿ノ瀬川・冷川については、顕著な濁りは確認できなかった。
- ・ 流下痕跡からも、大きな増水があったとは認められなかった。
- ・ ヘリコプターからの調査においては、火山灰の堆積があった区域においてガリー侵食

2014 年 10 月 7 日

（筋状の侵食）が確認され、これが河川の白濁の主な原因と考えられる。

- ・ 白川、湯川の流域においては、一定程度の火山灰が流出したと認められるが、火山灰の堆積があった区域内における侵食であったことから、土石流の危険性はシミュレーションを実施した時点と比べ変わらないものと考えられる。
- ・ しかしながら、大雨の際には、土石流に対する注意や警戒が必要であり、また、火山活動の推移により流域に状況変化があった場合には、これらをふまえた追加調査を行う必要がある。

河川名	濁沢川	湯川	白川	鹿ノ瀬川	冷川
状況	白濁	白濁	白濁	透明	透明

以上